

## 日本の協同組合金融に感銘

私は農村金融、協同組合金融および小額貸付について以前から関心を持っていました。特に、農家の収入安定と増加の保障メカニズム、農家と零細企業の金融サービスに注意を払ってきた。これまで、日本の協同組合金融の発展および協同組合金融機関の農家に対する金融サービスについて一定の理解はあったが、それは書物の上に限られたものでしかなく、これまで実際に体験する機会はなかった。2008年8月～9月の間に、日本国際交流基金の交流学者として、私は農林中金総合研究所において受入期間1ヶ月の客員研究員となった。1ヶ月という期間は長くはないが短くもなかった。この1ヶ月の間に、私は日本の農業、農村および農村金融について比較的系統だった、掘り下げた理解ができるようになり、特に日本の農民協同体制と協同組合金融についてより認識を深め、日本の協同精神の所在についても体験することができた。

この1ヶ月間、農中総研は私のために大変良好な職場環境を提供し、自分も研究所の一員であるのだと心から感じた。研究所の職員について最も印象が深いのは、彼らの仕事を敬う精神と友好である。いつも規定されている出勤時間前にもかかわらず、椅子は全て埋まり、退勤時間が過ぎてもまだ机に向かって研鑽に励み、協同組合金融発展のために頭をひねって考えている。私もこれに感化され、以前にも増して勉強するようになった。

石田理事研究員には、私の調査研究と特別テーマの討論について非常に綿密な手配により、所内の専門家、農林漁業金融公庫、農協、農林漁業信用基金、信金中金総合研究所、全国農業共済協会の専門家の皆様と討論を行う機会を設けて頂き、極めて多くの有益なヒントを得ることができた。また、農中総研社長および専務には長野、青森、宮崎まで御一緒頂き、現場の農協、県信連、県農業信用基金協会、農林漁業金融公庫の支店等を視察した。そのうえ、日本の農家、農協および協同組合金融に自ら触れる機会を作って頂き、農家と農協の関係を身にしみて感じ、そして日本の協同組合金融機関の組織的枠組みおよび運営メカニズムをより理解できるようになった。また協同組合金融の協力の精神と文化に感銘を受けた。特に県信連の管理者、農協経営者および農家との討論において、私が提起した幾つかの意地悪な質問に対する彼らの回答の中から、日本の協同組合金融成功の要因を悟った。

もちろん、社長および専務と議論そして意見を交換したことを忘れてはいない。彼らの農協と協同組合金融に対する理解度および熟知度は、私を驚かすのに十分であった。しかし、後になって、彼らはいずれも協同組合金融機関の単位組織である農協と向き合い、農林中金の各地の支店で経験を積み、最後に農中総研においてその任に就いたものであり、この組織のために30年以上も身を捧げていたことが分かった。私がこのような金融機関において30年も働くことができたら、必ず彼らのようにこの金融機関を理解できるようになるであろう。しかし、このようなチャンスはないと思う。また、研究所内の主な研究員はいずれも農協の実務部門を仕事を通じて知っている。このことから、農中総研は、

理論と実際を結びつけることができる真の専門的な研究部隊であることが分かる。

同時に、日本での視察と学習期間において、日本の温泉や飲食文化、謡曲などの伝統文化、青森の温泉、宮崎の牛肉および実務に励む日本農業の管理者等も、非常に強く印象に残った。

中国政府は、都市と農村間の所得格差の縮小に一貫して尽力しているが、日本の都市と農村間の所得にはそれほど格差はない。なぜ日本では実現したのであろうか。1ヶ月間の視察および学習期間中に、その中に存在する理由を掘り下げて研究することに力をいれた。私は、日本の農業と農村の発展から、次の幾つかの有益なヒントを得ることができた。

- 1 農業は体質の弱い産業に属し、農家は勢いの弱い群体であり、適切な方式で農業に対し一定の保護を与えることは必要である。これは農家の収入安定と増加を促し、都市と農村間の所得格差を縮小する重要な措置である。
- 2 小規模農家は協力が必要であり、協同の組織を通じて初めて市場に進出することが可能となる。同時に、生産、営業販売、金融等を含む総合的な協同組織の存在は、農家が協力し収益を最大限に実現するのに有利である。
- 3 農業の構造調整に注意し、農村経済の多元化と農家経済活動の多様化を実現させ、農村新興産業を育成することによって、農業の技術構成をグレードアップさせる。
- 4 全方位の農業保険と農村社会保障のメカニズムを確立することは、都市農村の協調・発展の基礎である。
- 5 健全な農村金融制度の存在は、農村経済の発展、農家の収入増加にとって重要な保障である。
- 6 農村の安定した発展は、農村金融分野における政府の役割が十分に發揮されることと切り離すことはできない。日本には、信用供給のメカニズムと信用保証のメカニズムを含む金融サービスを農家に提供する比較的健全な政策金融のメカニズムがある。
- 7 厳格な農地保護制度を実行することは、食糧の安全を保障する重要な措置である。

中国と日本の農業経済には、小規模農家の経済といった類似したところがあり、このため、日本農業の現在は中国農業の将来と言えるのかもしれない。従って、日本の農業と農村の発展方式を掘り下げて研究を行い、日本の農村協同組合金融制度、農業と農村金融発展における日本政府の役割、農地保護と流通制度、農村における社会的インフラの供給制度、農産品流通制度、農民の収入安定と増加のメカニズム、農業保険と農村社会保障のメカニズム、農村経済発展と農村社会安定における農協の役割、農村公共サービス組織と保障のメカニズム等を研究することは、中国にとって大変参考になるはずである。

農中総研での研究は一応終了した。しかし、日本の研究者達との協力は始まったばかりである。日本の農業、農村経済、特に日本農村の協同組合と協同組合金融についての私の研究も始まったばかりだ。こうして見ると、任務は重く、道は遠いように思われる。

2008年11月2日

(中国農業大学経済管理学院金融学部主任、農村金融・投資研究センター主任、教授  
何 広文・He Guangwen)